

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月6日

協議会名:氷見市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
加越能バス株式会社	運行系統名: ひみ番屋街經由氷見市民病院 運行区間: JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院	1 現状分析と計画策定の基礎データとして乗降調査を実施した。 2 コロナ禍において利用者は回復傾向にあるが、県や市のコロナ対策補助金を活用しつつ、利便性確保・維持のために運行本数を維持した。 3 JR氷見線との乗り継ぎ時に一日フリー乗車券の特典を付与する事業を実施したほか、氷見市内の散策マップ等に当該バスの紹介や時刻表にアクセスできる二次元コードを掲載するなど、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	1 目標 ・1便あたりの利用者数目標値 平日3.4人、土日祝日3.5人 ・系統別の利用者数 ①ひみ番屋街經由氷見市民病院1,100人 ②ひみ番屋街2,600人 ③市街地循環左回り4,800人 ④市街地循環右回り4,300人 2 効果達成状況 ・1便あたりの利用者数 平日4.6人、土日祝日7.0人 ・系統別の年間利用者数 ①ひみ番屋街經由氷見市民病院2,716人 ②ひみ番屋街4,607人 ③市街地循環左回り6,397人 ④市街地循環右回り4,826人 依然として新型コロナウイルスの影響があるものの、観光客数の回復により、利用者が増加し、どの系統も目標値を上回った。	1 乗降調査と利用実態の把握を継続し、コロナ禍が終息した後に、あるいはコロナ禍の中にあっても、利用者数が早期に回復するよう利便性を確保・維持する。 2 ポスト・コロナに向けた利用者数確保のための取り組みとして、JR氷見線と連携した利用促進事業を今後も継続して実施する。 3 氷見市芸術文化館の開館に合わせたバス停名の変更や観光客等にわかりやすい車内アナウンスを追加することにより、一層の利用環境の整備を行う。
	運行系統名:ひみ番屋街 運行区間: JR氷見駅～ひみ番屋街		A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。		
	運行系統名: 市街地循環左回り 運行区間: 氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院		A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。		
	運行系統名: 市街地循環右回り 運行区間: 氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院		A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月6日

協議会名:	氷見市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>氷見市は富山県北西部、能登半島の基部に位置し、面積は230.56km²、人口は43,950人(令和2年国勢調査確定値)である。</p> <p>近年では急速な人口減少・高齢化が進展しており、自家用車に依存した生活様式が定着していることもあり、民間バス事業者の路線廃線が相次いでいる。</p> <p>市内の公共交通は、JR氷見線の終点駅である氷見駅と、高岡方面から氷見市民病院まで(うち1路線は脇まで)を結ぶ地域間幹線系統バスとなっており、中心市街地内の主要な公共施設及び商業施設を周遊する路線はなく、自力での移動が困難な高齢者・障がい者・学生等の移動を十分に支援できていない。</p> <p>そのため、生活利便施設を周遊する「氷見市街地周遊バス(4系統)」を運行し、市街地周辺の地域住民の交通手段の確保・維持、来訪者の移動手段を確保し、JR氷見線や地域間幹線系統バスをはじめとした既存の路線バスとの接続性を高めることで、市内の公共交通の利便性向上を目指す。</p>